

○中村剛・下田透・平原哲郎¹⁾
(宮崎総農試畑作・¹⁾宮崎農大研修セ)

【目的】

本県では新品目・新産地育成対策として、12月～3月取りレタスが導入され産地形成が図られてきている。主として契約栽培を行っており、2L(620g以上)規格の多収栽培が求められているが、厳寒期での栽培となるため、収量・品質が不安定である。そこで、最も生産が不安定になる2月取り栽培において、トンネルの大きさと栽植密度が収量・品質に及ぼす影響を調査し、2L多収栽培に適した栽植方式を明らかにする。

【材料および方法】

品種は「レガシー」を供試し、2008年10月20日に200穴セルトレイには種し、11月13日に定植した。施肥量はa当たりN2.0、P₂O₅2.0、K₂O2.0(kg)とし、黒色生分解性マルチを用いた。被覆資材は、農POフィルムを2008年11月17日にトンネル被覆し、トンネル内には白色長繊維不織布(空隙率約43%)を2008年12月2日にべたがけとした。換気は裾上げにより行い、午前8時30分から開け始め、午後4時から閉めるのを基本とした。

試験区は表1に示した。トンネルの大きさは小型(間口110cm、高さ55cm)、中型(間口150cm、高さ80cm)、大型(間口250cm、高さ160cm)とし、小型・2条区は株間30cm、条間40cmの並列植え、大型・8条区における4条は株間30cmの千鳥植えとし、中央2列の条間は25cm、両側の条間は20cmとし、その他の区は株間30cm、条間30cmの千鳥植えとした。

収穫調査は、十分な生育量を確保するため、各区において過熟球の発生が認められてから行った。

【結果および考察】

1) 2L収量(図1)

大型・6条区では2,000kg/10a以上となり最も高く、小型・2条区及び中型・3条区では1,500kg/10a前後となり同等であった。小型・3条区では約1,100kg/10aとなり、中型・4条区及び大型・8条区では500kg/10a未満となり最も低かった。

2) 収量及び品質(表2)

小型トンネルでは、2条区は3条区に比べてA品収量は2,559kg/10a(74%)となり減少したが、2L率が25%増加した。また、2L+L率が95%とな

った。2条区では2L多収栽培が可能で規格のバラツキが少なく、一斉収穫による収穫コストの低減も期待できると考えられた。中型トンネルでは、3条区は4条区に比べて、2L率が39.8%増加した。A品率も9.5%増加し、A品収量は2,783kg/10a(104%)となり同等であった。大型トンネルでは、6条区は8条区に比べて、2L率が41.2%増加した。また、変形球の発生が減少したため、A品率は55.1%増加し、A品収量は4,110kg/10a(199%)となり増加した。

以上の結果から、小型トンネルでは2条植え、中型トンネルでは3条植え、大型トンネルでは6条植えが適している。

表1 試験区の構成

トンネルの大きさ	栽植密度
小型	2条(4,167株/10a)
	3条(標準:6,250株/10a)
	3条(5,000株/10a)
中型	4条(6,667株/10a)
	6条(3条2畦、6,667株/10a)
大型	8条(4条2畦、8,889株/10a)

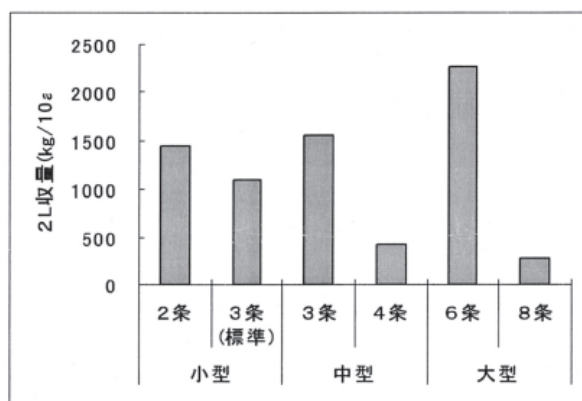


図1 トンネルの大きさと栽植密度が2L収量に及ぼす影響

表2 収量及び品質(調査日2009年2月16～21日)

トンネルの大きさ	栽植密度	収穫日(月/日)	A品収量(kg/10a)	A品率(%)	A・B品規格割合(%)				
					2L	L	M	S	2S
小型	2条	2/20	2559	95.1	56.7	38.3	5.0	0.0	0.0
	3条	2/20	3463	98.7	31.7	45.0	11.7	8.3	3.3
中型	3条	2/21	2783	90.8	55.9	27.1	10.2	5.1	1.7
	4条	2/16	2677	81.3	16.1	35.7	21.4	17.9	8.9
大型	6条	2/18	4110	98.5	55.0	31.7	11.7	0.0	1.7
	8条	2/21	2067	43.4	13.8	56.9	19.0	10.3	0.0